

越の國細見

横濱市 小川 弘 (本町三丁目出身)



これによると、加賀と能登は越前を分割して作つたらしい。能登が先に出来て、加賀はそれから約百年後に出来た。越中から分割された四郡とは預城・魚沼・古志・蒲原らしい。となると、今の新潟県の半分以上が越中に所属していたことになる。吾が父祖の地は当初越中だったらしい。但し、蒲原郡の範囲が気になる。

最近、古本屋で手に入れた本「万葉の

歌十五 北陸」(保育社、中西進企画、富山大学教授山口博著、昭和六十年十二月発行)に、もう少し細かく載っていた。

この本によると、天平時代には越前は加賀能登を含み、越中は預城・魚沼・古志・蒲原を含むとある。又、養老二年(七一)に越前の能登・羽咋(はいくい)・鳳至(ふけい)・珠洲四郡が能登の国となる。弘仁十四年(八二六)に越前の加賀・江沼の二郡が加賀の国となる。「越後の國細見図」と三、四年の差はあるが、同じような事を言っている。

後者の方は平城宮跡出土の木簡から推

定している。この木簡とは、地方から朝廷に地方の物産を貢後する時の荷札のようなものである。

吉備の国を分けたのが備前・備中・備後・美作であり、筑紫を筑前と筑後に分割した。毛野の国を上野(こうづけ)・下野(しもつけ)に分けたのは何となく字面から分かる。肥前・肥後「火の國」から分け、豊前・豊後は「豊の國」を分けたものか、分からない。

蛇足ではあるが、天平時代には今の福島県と山形県以北は出羽と道の奥(陸奥：みちのく)と總めて呼称されていた。ようやく明治元年になって、出羽は羽前と羽後に分割され、陸奥は岩城・岩代・陸前・陸中・陸奥に分割された。これは、明治新政府が諸大名に版籍を奉還させ、新しい行政区画を策定し、現在の都道府県制度を導入するのに必要があったからだろう。陸前と陸中があるのに陸後がないのが面白い。明治の役人の手違いがあったらしい。その辺りが分かると面白くなる。

旧国名の中に国名の前に前中後とか上下を付けた国名がたくさんある。前中後を付けた国名は越前・越中・越後 備前・備中・備後 筑前・筑後 豊前・豊後 肥前・肥後等があり、上下を付けたのは上野・下野と上総・下総がある。上下を付けたのは関東にしかない。

これらの旧国名の国々は越前・越中・越後を除けば、全て国境を接している。しかし、越前と越中の間に加賀と能登が挟まっている。このことを、私は長い間不思議に思っていた。

「越後の國細見図」という天保十三年

(1) 初出 藤原宮文簡武元元年(697)
越前 越前即位前記
越中 続日本紀大寶2年(702)
越後 続日本紀文武2年(696)



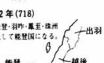
(2) 大寶2年(702)
越前国、越中・魚沼・古志・蒲原を併合



(3) 和銅5年(712)
出羽国、越後国より分離



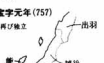
(4) 養老2年(718)
越前国の能登、羽咋・鳳至・珠洲の四郡独立して能登国になる。



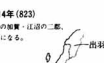
(5) 天平13年(741)
越中国、能登国を併合



(6) 天平宝字元年(757)
能登国再び独立



(7) 弘仁14年(823)
越前国の加賀・江沼の二郡、加賀国になる。



(8) 現在

